

～全国コンクールで評価されています～

自治体の優れた広報紙を表彰する全国広報コンクール(日本広報協会主催)。毎年開催され、県予選を経て出品されます。広報ひらいずみとしては、456号(平成7年7月)が県予選の広報紙部門で3位となって以来、同部門で入賞(2位)した724号(平成29年10月)が初めて全国コンクールに出品され、初入賞。780号(令和4年6月)は、町として全国コンクールで初の「入選」となり、全国でも評価を受けています。

780号(令和4年6月)
令和5年全国広報コンクール(一枚写真部) **入選**



▲コロナ禍で感染症予防対策を取りながら開催された藤原まつり「源義経公東下り行列」の一場面を撮影しました。

724号(平成29年10月)
平成30年全国広報コンクール
(広報紙町村部) **佳作**



▲町の特産品「黄金メロン」の特徴や生産者の思いなどを10ページにわたって紹介し、魅力に迫りました。

おかげさまで、広報ひらいずみ **800号**



町が昭和30年に創刊した「広報ひらいずみ」は、本号で800号を迎えました。町民生活とともに歩みながら、町民の皆さんの生き生きとした姿や取り組みを紹介、記録してきました。節目を記念して、広報ひらいずみの移り変わりを振り返ります。

これからも地域の元気を伝え、町民同士をつなぐ役割を果たし、皆さんに親しまれる紙面作りに努めます。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

表紙の写真を大きくし、A4判で掲載。当時は20頁。
▼562号(平成16年5月)



紙面のサイズが、現在のA4判となりました。当時は20頁。
▼441号(平成6年4月)



それまでの白黒から、2色刷りとなりました。当時はB4判18頁。
▼331号(昭和60年4月)



昭和30年4月15日に現在の平泉町が誕生。当時はB4判2頁。
▼創刊号(昭和30年9月)



担当者のこぼれ話
パンチ穴を開けています
広報紙を毎月つづって保存してほしいの思いから、つづり用の穴を開けています。

発行して100部余りを印刷します。出来上がった広報紙は、職員が各行政区長さん宅に届けます。区内の班長さんなど多くの皆さんの協力を得ながら、各世帯に届けられています。

皆さんの手元に届くまで
広報ひらいずみは、毎月1日に発行しています。紙面の大きさや色使い、題字などが時代によって移り変わり、令和3年からは全てのページをカラーで印刷し、見やすさにこだわっています。

広報担当者が町内各地に駆け付け、町民の皆さんや行事取材。役場内の各部署からお知らせ用の原稿の取りまとめも行い、パソコンの専用ソフトを使って紙面の編集作業に当たっています。



▲767号(令和3年5月)
この号から全ページがカラー印刷となり、全ての写真が見やすくなりました。



▲766号(令和3年4月)
現在の題字に変更。「平泉」の字は、書道家で町観光大使の武田双雲さんが揮毫しました。



▲700号(平成27年10月)
創刊から約60年を経て大台に到達。広報紙の役割など記念特集を掲載しました。

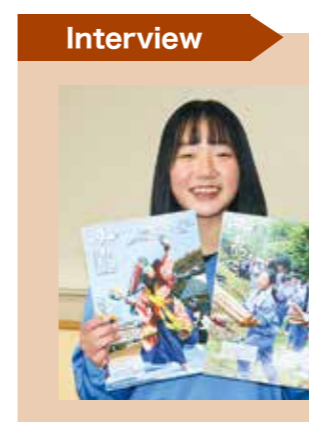


▲671号(平成25年5月)
表紙のほか一部ページをカラー印刷とし、紙面構成が現在のものに近づきました。

広報ひらいずみの役割
毎号読んでもらえるよう、連載にも力を入れています。本号で222回となる「平泉を掘る」(本号では8頁)は、世界遺産など多くの貴重な資産を有する町ならではの企画です。また、本年度初めて町に着任した「地域おこし協力隊」の隊員の活動を、隊員目線で紹介するコーナー(本号では5頁)も設けています。

人口減少が続く中、町の明るい話題を町民の皆さんで共有し、元気づけたい。果たず役割は増していくと考えています。より皆さんに愛される紙面を目指します。

「記者ハンドブック」を活用
どの世代も読みやすい内容とするよう、記事は「記者ハンドブック 新聞用字用語集」(共同通信社)を基に執筆。基本的に新聞と同じような表記とし、行政文書の表記とは異なっています。



Interview
広報ひらいずみ774号(令和3年12月号)、783号(4年9月)の表紙に載った平泉中学校3年 佐藤 寧音さん(11区)

広報は毎月読んでいて、家族にも「読んで」と勧められます。表紙に自分が載った号は、保存しています。学校に関係するページのほか、祭りや行事の写真が多く載っていたり、知っている人が写っていたりすると、そのページを特に見ますし、友達との話題に上ることもあります。文字よりも写真が多い紙面だと思っています。